

**中国人民銀行・利下げを発表**

中国人民銀行(中央銀行。以下 PBOC)は 2015 年 5 月 10 日、同行 HP 上で人民元預金・貸出基準金利の引下げ、並びに人民元預金金利変動幅の上限引上げを発表した。

**1. 発表内容**

## (1) 人民元預金・貸出基準金利引下げ

(単位; %)

	変更前		変更後	変更幅
1. 預金金利				
(1) 流動性預金	0.35		0.35	不変
(2) 定期預金				
3ヶ月	2.10	3ヶ月	1.85	-0.25
6ヶ月	2.30	6ヶ月	2.05	-0.25
1年	2.50	1年	2.25	-0.25
2年	3.10	2年	2.85	-0.25
3年	3.75	3年	3.50	-0.25
2. 貸出金利				
1年以内	5.35	1年以内	5.10	-0.25
1年超5年以内	5.75	1年超5年以内	5.50	-0.25
5年超	5.90	5年超	5.65	-0.25

(2) 預金金利の変動幅上限 ; 基準金利の 130%から 150%へ引上げ

(3) 実施日 ; 2015 年 5 月 11 日

**2. 利下げの背景**

今回の利下げは 2014 年 11 月、2015 年 3 月に続くものであり、6ヶ月で 3 度目。今回の金融緩和局面では、直近では今年 4 月の人民元預金準備率引下げに次ぐ緩和措置となる。不安定な外需に加え、時間を要する国内の経済構造調整も半ばであり、昨年度の実質 GDP 成長率は前年同期比+7.4%にとどまっており、経済の減速感内外の認めるところとなっている。

PBOC は今回の発表(Q&A)の中で、今回の対応の「重点」を①引続き基準金利の誘導作用を発揮させること、②社会融資コスト低下効果を一層強化すること、③経済構造の調整、転換、レベルアップ

ップのため中立的且つ適度な通貨金融環境を創出すること、としているが、この部分については前回 2 月とはほぼ同じ表現となっている。

一方で、前回 2 月とはインフレについての表現を変えており、「物価が低位で推移しており、引き続き経済構造の変化や国際的商品市況の大幅低下、消費財価格の下落などで実質金利の上昇につながっている」という表現から「物価水準は低位で推移しており、実質金利は歴史的平均水準からすると今なお高い」と分析している。その上で「金利を金融政策のツールとして継続的に利用できる余地がある」として、引続き現状の金融政策を利用していく姿勢を維持している。

また前回 2 月同様、人民元預金・貸出基準金利の引き下げと同時に預金金利変動幅の上限の引き上げ(基準金利×130%⇒150%)を行っている。預金保険制度の準備が順調であることに加え、足元の金利環境、資金流動性環境も完全な自由化へ向けて準備が整ってきていることを強調している。また、今回は発表(Q&A)の中で“一浮到頂”という言葉を使用し、この変動幅の上限引き上げをすぐに銀行が行うことはない、と明確に分析しており、引き続き裁量余地を増やすことで金融機関のプライシング能力を高めていく意図が確認できるものとなっている。

### 3. 所見

1 年の貸出金利 5.10%は、基準金利制度施行後の最低(これまではリーマンショック後の 5.31%が最低)となった。現在の利下げペースは、各金融機関エコノミストの予想の範囲内ではあるものの、一方で、4 月の預金準備率 1%引き下げ/今回の基準金利 0.25%引き下げ、という一見して「小出し」の政策は、物価動向と実質金利をにらみながら慎重な調整を行っていることの現われと言える。更に、米国の金利上昇局面が早まるようなことがあれば、舵取りはいっそう難しくなってくるであろう。今後の「新常态」への移行過程では、内外経済環境を踏まえたマイクロ・マクロ両面からの丁寧な政策運営が必要となる。

以上

**作成 : 三菱東京 UFJ 銀行(中国)有限公司 環球金融市場部 021-6888-1666 ex) 2910~2918**

当資料は相場情報の提供を唯一の目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。投資の最終決定は投資家ご自身の判断でなされるようお願い致します。当資料は信頼できる情報に基づき作成したのですが、その正確性、安全性を保証するものではありません。また、過去の結果が必ずしも将来の結果を暗示するものではありません。当資料は執筆者の見解に基づき作成されたものであり、弊社の統一された見解ではありません。当資料は使用することにより生ずるいかなる種類の損失についても弊社は責任を負いません。尚、当資料の無断複製、複写、転送はご遠慮下さい。当方の都合で、本レポートの全部または一部を予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。